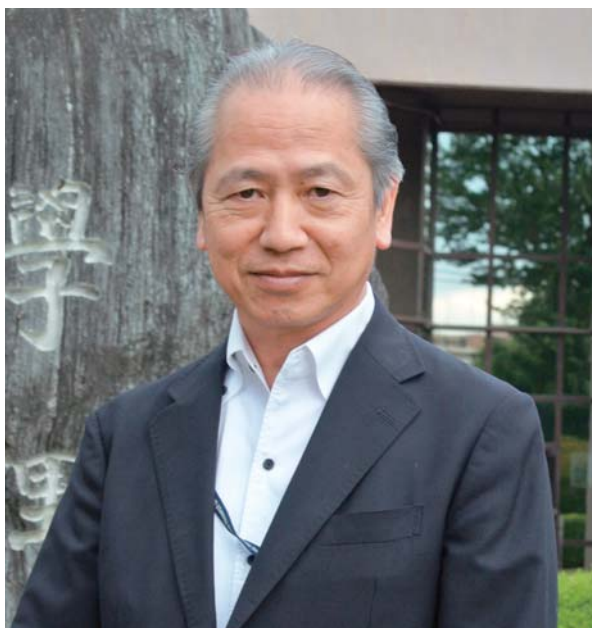


新タイプの公立大、静岡に

学校法人 麻布獣医学園 麻布大学 学長

浅利昌男さん

Masao Asari



経歴

静岡市駿河区生まれ。静岡市立高校卒業。麻布獣医科大学（現麻布大学）獣医学部卒業。岩手大学大学院農学研究科修了、麻布大学獣医学部教授、獣医学部長を経て、2014年、麻布大学学長に就任。63歳。獣医学博士。米国コーネル大学、テキサスA&M大学で研修、北里大学非常勤講師、全国大学獣医学関係代表者協議会大学代表などを歴任。麻布獣医学園理事、日本獣医学会評議員、獣医神経学会理事。講演依頼も多い。
<http://www.azabu-u.ac.jp>

獣医師輩出数は日本一

改革への期待を集め昨年6月、学長に就任した。「麻布大学は実学教育（建学精神）に力を入れており、他大学に比べ実習が多彩なのが大きな特色です」。

1980年に麻布獣医科大学から麻布大学に名称変更し、今年で創立125年。全国に16大学ある獣医学科の「老舗」の一つだ。「人と動物と環境の共生」を教育理念とし、輩出した獣医師数は日本一。海外

静岡市にゆかりがあり、東京を拠点に内外で活躍する皆様に、東京から見た静岡市の良さと可能性、まちづくりの方向について、ご提案いただきます。

の大学などとの交流も積極的に展開する。

獣医師の役割は、ペットの診療から、口蹄疫など国境を越えて侵入する感染症への対応など幅広く、重要性和社会のニーズはますます高まっている。

専門は獣医解剖学。米国の名門、コーネル大学で研修するなどし、経験を積んだ。犬や猫など家畜のリンパの研究で知られ、「わかりやすい講義」と学生に人気だ。近年、女子の入学が増え半数近い。「かつてとは様変わりですね。講義や臨床にも積極的

です」。

「グローバル」な人材を

グローバル化時代を迎え、教育現場では「グローバル」という言葉がよく使われるという。「グローバル」と「ローカル」の造語だ。「静岡市はグローバルな人材養成をする文化学園都市を目指したかどうか」と提案する。

「国際的な素養を持ちながら地域で活躍する人材を産官学で育てるのです。勉強環境は文句なし。大都市からの交通は至便だし、近くに空港もある。アジアの学生を中心にキャンパスの国際化も可能」というわけだ。例として、周辺自治体や民間の支援を得て危機管理、福祉医療など喫緊の課題に取り組み新しいタイプの高等教育機関を誘致、開設し、若者が集まるまちづくりを挙げる。「函館に公立大学がある。市の規模から静岡市立大学（仮称）があってもおかしくないのでは」と大胆発言も。

「静岡は地元でいたいという大学受験生が意外と多いんですね」。浅利さんはリクルートのデータで、2014年～25年の静岡県内の大学入学者減少率見込みが東京や神奈川県などと、さほど大きな開きがないことに着目。「入学者対策をしっかりと講じれば県内の大学が発展する余地は十分あると思います」。教育人ならではの視点に立った指摘に、郷土への熱い思いがにじむ。

（文：長田義明、写真：浅利氏提供）